

## 遷延性意識障害患者を看護するスタッフへの学習支援 ～ポートフォリオを活用して～

木沢記念病院 中部療護センター

○遠山 香織、石山 光枝

【目的】 当センターでは、遷延性意識障害患者の看護を行なう上で必要な項目についてテーマを決めてグループ学習を行なって来たが、学習した事が十分に役立てられ看護の質向上やスタッフの満足感に繋がっていないという現状があった。そこでポートフォリオを活用したプロジェクト学習を取り入れ、自律性を目指した学習支援を行なったので報告する。

【方法】 1、学習方法、ポートフォリオの使い方説明。テーマ選定とチーム結成。情報を集めポートフォリオに入れる。チームで「成果物(提案集、マニュアル、研修会等)」を作り出す。成果発表とまとめ。2、定期的な面接とコーチングを行なう。

【結果】 スタッフが取り組んだテーマは13あり、全チームが成果物を作り発表できた。ポートフォリオは個人の成果が一目で分かり面接時の評価にも活用できた。発表方法は従来のパワーポイントから模造紙に自由に製作するという方法で分かり易く後から見ることもできた。

【考察】 ナースは生涯を通じて看護の探求者であり、学習者であること、さらに経験から謙虚に学んでいくことが求められる。鈴木は「プロジェクト学習は、単なる課題解決型学習ではありません。願いを胸に抱き、それをかなえる具体的な目標、ゴールへ向かうものです。何の為に何をやり遂げたいのかを1人ひとりが明確に持ち、進める意志ある学習なのです」と述べている。慢性期の看護は患者の変化がゆっくりでマンネリ化しやすくモチベーションが低下してしまう事がある。スタッフ自らが課題を決め主体的に取り組む学習方法はスタッフに達成感を与え、その成果物により、看護の質向上にも役立てる事ができる。